

ヒーローズ塾生のみなさん、保護様方、こんにちは。

11月 予定

1	土	岡山県公開模試・中3補習
2	日	休校
3	月	祝日休校(中2補習)
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	中3補習・数学算数検定
9	日	休校
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	適性模試
16	日	休校
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	休校
24	月	祝日休校(早中テスト対策) 通常授業は振替。
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	中3補習(定期テスト対策・中3興除中テスト対策)
30	日	休校

11月になると一気に世間はクリスマス。我々やみなさんは受験モードです。来年1月17日からの大学センター試験、2月12日からの実業系高校入試、1月11日中学受検・・・それぞれ100日前後に迫ってきました。カウントダウンです。ゴールを見すえて、今、何をするか？です。今、何をするかで3ヶ月後は決まっています。

今回は、今すべきこと。本番の練習としての模試について。

先々週、高校受験生全員へ11月1日(土)、2日(日)、3日(月)の模試案内を送付させていただきました。それぞれが岡山県公立入試を参考にして作問されます。3日間全部、受験するのもいいでしょう。学習体力(集中力)アップ練習にもってこいです。この機会に受験してください。対外試合は年内最後です。ただ、やみくもに模試を受験しても意味がありません。どうせ受けるならば、上手に模試を利用して、成績を伸ばせるようにしましょう。ここでは、その利用方法をいくつか紹介しますので参考にしてください。

まず、模試を受ける目的をしっかりと理解することです。

(1) 偏差値を見ることで、自分の現在の学力(自分の学外での位置)を知ることができる。たとえば、学校の定期試験は350点を超えているが、模試では偏差値50だった。という場合、偏差値50ということは、その模試での平均点ぐらいということになるので、受験に向けての得点力が不足しているということがわかります。

(2) 偏差値を見ることで、過去の自分の学力と比較ができる。

たとえば、数学の模試での点数が1回目55点(偏差値48)、2回目50点(偏差値51)という場合、点数は下がっていますが、偏差値が上がっているため、問題の難易度が上がっていることがわかり、他の生徒さんよりも学力的には上がっているということがわかります。

(3) これまでの学習の中での未消化(まだ理解ができていない)の部分がわかる。

模試の結果表を見れば、どこができて、どこができていないかすぐにわかります。

(4) 志望校合格判定を参考に実際の受験校を決定する。

では、準備。

全部の範囲を復習できることが一番ですが、なかなかそうはいきません。特に中3生ともなると中1・中2の復習となるので、各教科の教科書2冊分をやらなければいけないこととなります。だからこそ、普段の積み重ねが大切だということもわかります。それでも、直前のちょっとした工夫はあります。それは、毎回の各教科の範囲の中で、自分をもっとも苦手としている単元を徹底的に学習し、強化すること。ようは苦手な単元を少なくするということです。今回3回の模試で3単元の苦手単元が撲滅できます。また、模試の結果が届いたら、得点や偏差値を見て、一喜一憂で終わらせないことです。教科ごとに問題ごとの正答率と自分の正解、不正解がわ

個別指導学院ヒーローズおかやま

TEL FAX 086-239-8696

ブログ <http://heros-okayama.com>

かるようになってきているので、自分では苦手とっていなかったが得点がとれていないところが発見します。特に正答率が高くて、できていない部分は比較的簡単な問題だと考えられるので、そこから、まず復習をしていくことです。

「がんばろう」、「成績を絶対に上げてやる」とか、「絶対に〇〇に合格してやる」など前向きな気持ちを持つことです。勉強をして、成績が上がらないはずはありません。

11月14日（金）より小学生・中1・2面談を行います。

中学生は、10月末の定期テスト（中間考査）が返却され、早いところでは11月23日週から2学期2回目の定期テスト（期末考査）が始まるこの時期に面談を行います。日頃の学習状況などをお話させていただきます。お願いしたいことは各自、夢や目標を持って取り組んでほしいと思っています。よろしくお願ひします。面談のご案内は個別に生徒さんを通じてお渡ししますの希望日時をご記入のうえ生徒さんを通じてお渡しください。（メールでもかまいません。）

生徒さんの個性を分析したら・・・

学習はインプット（入力）をしていかにアウトプット（出力）するか？です。正しい出力ができるようにするため、生徒さんに限らず、社会に出ても人は繰り返し学習します。1回の入力ですぐできる人もいれば、何度も何度もやってもできない人も現実にはいます。それを個性やセンスと言っています。学習において、我々、指導する側は生徒さんのそれぞれの個性にあった指導をしないと学力は伸びません。知らなかつた・・・では済まされません。弊塾はご入塾時に学習力診断になるものを実施、大方、3つのタイプに実は分けています、例えば「海と聞いて連想するものは？」と問うと「海の青！」「波の音」「泳ぐ！」などとさまざまな答えが出てきます。その答えにその人の個性が表れます。

人間の情報のインプットは「視覚」「聴覚」「体感覚」の3つです。「海と聞いて連想するもの」の答えにはその人の優位な傾向が現れます。つまり海の青と答えた人は視覚、波の音は聴覚、泳ぐは体感覚に優位性があり、それを意識して指導します。視覚優位にはノートやホワイトボードに書いて教え、聴覚優位には論理的に話さないと効果薄です。体感覚優位には、まとめノートなどを作成させて、生徒さんに書かせて指導するとより効果的です。一般的に現代はパソコンやスマホなど情報端末の発達により「視覚」優位の生徒さんが多いです。そもそも、人間は「読み書きそろばん」とあるように本来は“読み”から始まる・・・つまり「聴覚」です。人間は胎児のころから耳がまず発達します。目はむしろ一番遅いです。ですから幼児のころから絵本などで読み聞かせ「聞く力」を育てておきます。・・・老化が進行し、もの忘れが多くなると「視覚」「聴覚」「体感覚」の順に衰えてきますね。年には勝てません。

次の質問7つ。1が一番多い方（視覚） 2が一番多い方（聴覚） 3が一番多い方（体感覚）です。

質問1、この中でよく使う言葉はどれですか？ ①はっきりしてる。②自分はこう思う。③これは気になる	質問5、学校の授業で好きな授業はどれですか？ ①教科書や黒板を見る②先生の話聞く③黒板を書き写
質問2、会話をするときどんな動作をしますか？ ①手をよく動かす。②手が口元にいく。③体をよく動かす。	質問6、海と聞いて思い浮かべるのは？ ①海岸から眺めている様子②波の音やカモメの鳴き声③海を泳いでいる様子
質問3、会話をするときどこをよく見ますか？ ①上を見がち②きょろきょろしがち③下を見がち	質問7、次の名で好きなことは？ ①映像を見ること②音を聞くこと③体を動かすこと
質問4、どの状況が一番苦手ですか？ ①目がチカチカするような場所（ゲームセンター）②ざわざわうるさい場所（ファミレス）③通勤ラッシュで混み合った電車内	